

◎今週の御言葉 「信仰によって」(ヨシュア記6章1～20節、ヘブル人への手紙11章17～22節、29～31節)

「見よ。わたしはエリコとその王、および勇士たちを、あなたの手に渡した。あなたがた戦士はすべて、町のまわりを回れ。町の周囲を一度回り、六日、そのようにせよ。」(2,3)、「信仰によって、人々が七日の間エリコの城の周囲を回ると、その城壁はくずれ落ちました。」(30)

◎私たち人間同士の関係(夫婦、親子、兄弟、上司と部下、その他)で最も大切なのが信頼関係です。その信頼関係が崩れると悲劇が待っているのです。神様と私たちとの間ではこの信頼関係をもっと大切にすべきではないでしょうか？

◎ヨシュア記6章の主題は「エリコの陥落」です。エリコはカナン中央高地への要衝であり、難攻不落といわれ、イスラエルが最初に攻略しなければならないところでした。かつてこの戦いは「主の戦い」だと抜き身の剣をもってヨシュアに臨まれた主が、イスラエルの民にエリコを攻略するために命じられたことは3点でした。①「いくさびとはみな、町を巡って、町の周囲を一度回らなければならない。六日の間そのようにしなければならない。七人の祭司たちは、おのおの雄羊の角のラッパを携えて、箱に先立たなければならない」(3-4)。②「七日目には七度町を巡り、祭司たちはラッパを吹き鳴らさなければならない。そして祭司たちが雄羊の角を長く吹き鳴らし、そのラッパの音が、あなたがたに聞える時、民はみな大声に呼ばわり、叫ばなければならない。そうすれば、町の周囲の石がきは、くずれ落ち、民はみなただちに進んで、攻め上ることができる」(4-5)。③「あなたがたは呼ばわってはならない。あなたがたの声を聞えさせてはならない。また口から言葉を出してはならない。ただ、わたしが呼ばわれと命じる日に、あなたがたは呼ばわらなければならない」(10)。祭司たちも民も兵士たちも皆ヨシュアが命じることに聞きしたがって行動したのです。そのことによってエリコの城は落城したのです。正に無手勝流です(末永牧師の言葉)。更に、次のように命じられたのです。ラハブ一家は異邦人であり、ラハブ自身も娼婦であったので「イスラエルの宿営の外にとどめておいた」のです(23)。しかし後に民の一員と遇されたのです(25)。ラハブは主イエス・キリスト様の系図にも名を連ね(マタイ1:5)、ヘブル人への手紙(11:31)やヤコブの手紙(2:25)でも評価されているのです。

◎「信仰がなくては、神の喜ばれることはできません。神に近づく者は、神のおられることと、神を求める者には報いてくださることを信じなければならないのです」(6)。0